作物名

（ 2021 ）年 度 委 託　　（ 稲 ）

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名　いもち病(葉・穂)　*Pyricularia oryzae*

試験場名　一般社団法人　日本植物防疫協会　　担当者氏名　日植防　太郎

1. 試 験 目 的　防除効果および薬害の検討

2. 試 験 方 法　試験地場所　東京都北区中里 2-28-10　一般社団法人日本植物防疫協会

対 象 病 害 虫 発 生 状 況　葉:少発生(接種)、穂:中発生

耕種概要（品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培(ビニルハウス・雨除け・トンネルなど)の区別・土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載）

品種:コシヒカリ　播種日:2021年 4 月 19 日　移植日:5 月 10 日　出穂期:8 月 1 日

栽植距離:株間 17cm×条間 30cm　播種量:乾籾 150g/箱　使用苗箱数:20 枚/10a　土性:不明

育苗培土:苗みどり(株式会社関東農産)

試験期間中の防除薬剤 ： 5 月 1 日 ABC フロアブル

施肥(/10a)： こしひかり一発肥料(16-18-15)微量要素苦土 2.0%入 40kg、 6 月 25 日 硫安(N20.9%)20kg

その他一般管理は慣行に従った。

区制・面積・試験区の構成　1区　72.0 ㎡(3.6m×20.0m)　3 連制

1－Ⅰ	2－Ⅰ	3－Ⅰ	4－Ⅰ
4－Ⅱ	1－Ⅱ	2－Ⅱ	3－Ⅱ
3－Ⅲ	4－Ⅲ	1－Ⅲ	2－Ⅲ

1:A 粒剤　播種時覆土前処理　　2:A 粒剤　移植当日処理

3:B 箱粒剤　移植当日処理　　4:無処理

Ⅰ、ⅡおよびⅢは連制を示す。

処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨の影響

（処理年月日） 播種時覆土前処理 ： 2021年 4 月 18 日(播種前日)

移植当日処理　　： 5 月 10 日(移植当日、2.5 葉期)

(処理方法)　播種時覆土前処理 ： 50g/箱の割合で播種前の床土上に均一に手散布した。

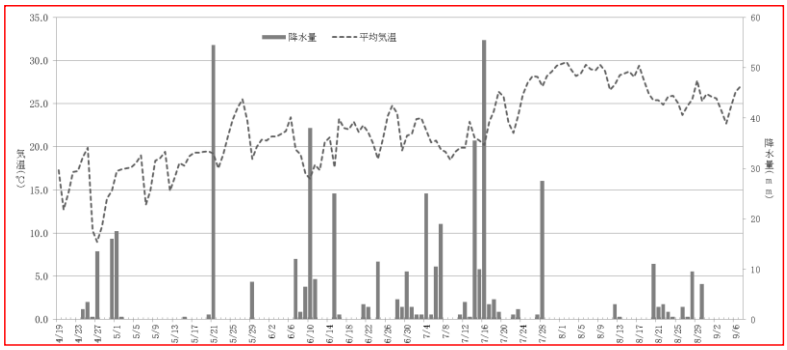
移植当日処理　　： 50g/箱の割合で稲体頭上より均一に手散布した後、軽く散水した。

（処理前後の降雨影響） 処理前後に降雨はなかったため、影響はないと思われる。

試験期間中の気象条件

日付	4/19	4/20	4/21	4/22	4/23	4/24	4/25	4/26	4/27	4/28	4/29	4/30	5/1	5/2	5/3	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10
平均気温 (℃)	25.3	25.1	25.1	21.6	22.7	25.3	26.7	26.4	24.9	21.6	21.3	20.8	22.1	23.8	22.8	23.9	25.7	26.0	26.0	25.8	26.3	25.3

観測地点(育苗期間):試験場内施設　観測機器



観測地点(本田移植後):アメダス東京

コメントの追加 [注1]: 学名の表記方法について
以下アドレス内(http://www.jppa.or.jp/test/shiken.html)の学名リストに代表的な学名を記載しています。ご活用下さい。

コメントの追加 [注2]: 播種量、使用苗箱数について
・側条施用や箱処理剤には記載が必要。
茎葉処理剤などでは省略可。

コメントの追加 [注3]: 土性の表記について
・壌土、砂壌土、砂土など。分からない場合は不明と記述。
・播種時処理、緑化期処理は育苗培土も記載。

コメントの追加 [注4]: 試験期間中の防除薬剤(殺菌又は殺虫剤)について
・使用月日、薬剤名を記載。試験開始前であっても試験に影響があると考えられるものは記述する。使用していない場合は「なし」と記載する。

コメントの追加 [注5]: 処理方法の表記について
・箱処理の場合:処理方法、処理量(/箱)の記載が必要。

・側条処理の場合:使用した機材(メーカー、型番)、実処理量(/10a)の記載が必要。

・湛水散布の場合:止水期間、処理時の水深の記載が必要

・少量散布の場合:使用したノズル、ノズルピッチの間隔、噴霧圧力、吐出量、歩行速度の記載が必要

コメントの追加 [注6]: 気象条件について
・試験開始から最終調査日までの平均気温、降水量を表またはグラフで示す。
・データの引用元を付記する。

作物名

（ 2021 ）年 度 委 託　　（ 稲 ）

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名　いもち病(葉･穂) *Pyricularia oryzae*　　**試験場名**　一般社団法人　日本植物防疫協会

調査月日･方法（月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類･式、薬害の判断方法･時期を記載）

（調査月日）　薬効試験　葉いもち:7 月 17 日(移植 68 日後)、8 月 1 日(移植 83 日後)
穂いもち: 9 月 6 日(移植 119 日後)
薬害試験 4 月 19 日～5 月 10 日(育苗期間)、
5 月 24 日、6月 10 日、7 月 17 日、8 月 1 日、30 日、9 月 7 日(移植 120 日後)

（調査方法）　葉いもち:7 月 17 日は全葉を対象に各区中央 50 株について、8 月 1 日は第 3 葉以上の病斑を対象に各区中央 50 株について発病の有無および病斑数を調査し、発病株率、株当たり病斑数を算出した。防除価は株当たり病斑数の平均より求めた。

穂いもち: 9 月 6 日は各区中央 40 株の任意の 10 穂(計 400 穂)について発病程度別(節･首、1/3 以上の枝梗、1/3 未満の枝梗)に発病の有無を調査し、程度別の発病穂率および次式により被害度を算出した。防除効果は被害度の平均より求めた。

被害度 ＝ 節･首率＋枝梗(1/3 以上)率×0.66＋枝梗(1/3 未満)率×0.26

薬害:育苗期間中は出芽や茎葉を対照に肉眼により観察し、本田移植後は、茎葉と穂を対象に、肉眼により観察し、薬害症状の有無を以下の内容で評価した。
－:薬害を認めない　＋:軽微な薬害症状を認める　＋＋:中程度の薬害症状を認める
＋＋＋:重度の薬害症状を認める

その他（特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所･時期･由来、月日、詳細な方法を記載）
接種:7 月 4 日に稲いもち病菌(所内保存菌株)の分生子を噴霧接種し作成した罹病苗(品種:コシヒカリ)を、区当たり 33 箇所(3 列×11 箇所)の割合で均一に移植し感染源とした。

3. 試 験 成 績

薬効調査(葉いもち:7 月 17 日、8 月 1 日)

供試薬剤	処理量 処理方法	連制	7月17日(移植68日後) 調査株数	発病株率(%)	株当たり病斑数	防除価	8月1日(移植83日後) 調査株数	発病株率(%)	株当たり病斑数	防除価
1） A粒剤		Ⅰ	50	4.0	0.04		50	18.0	0.18	
	50g/箱	Ⅱ	50	12.0	0.15		50	30.0	0.37	
新規化合物 2%	播種時覆土前	Ⅲ	50	9.0	0.16		50	16.0	0.18	
Lot No. AAAAA		平均		8.3	0.12	98.1		21.3	0.24	78.6
1） A粒剤		Ⅰ	50	7.0	0.10		50	23.3	0.27	
	50g/箱	Ⅱ	50	9.5	0.14		50	21.7	0.33	
新規化合物 2%	移植当日	Ⅲ	50	15.5	0.23		50	20.0	0.20	
Lot No. AAAAA		平均		10.7	0.16	97.5		21.7	0.27	75.9
対） B箱粒剤		Ⅰ	50	10.0	0.13		50	26.7	0.28	
	50g/箱	Ⅱ	50	11.5	0.14		50	16.7	0.23	
既知化合物 3%	移植当日	Ⅲ	50	26.0	0.35		50	11.7	0.12	
既知化合物 12.5%		平均		15.8	0.21	96.7		18.4	0.21	81.3
		Ⅰ	50	96.0	5.96		50	52.0	1.33	
無処理		Ⅱ	50	98.0	7.28		50	36.0	0.98	
		Ⅲ	50	98.0	6.12		50	45.0	1.04	
		平均		97.3	6.45			44.3	1.12	

コメントの追加 [注7]: 調査月日･調査方法について
･薬効と薬害の調査日が異なる場合はそれぞれ記載。
･調査月日と方法の項目を分けずにまとめても可。
･薬害は、いつ、どの部位について観察したかわかるように記述する。グレードは適宜定めてよい。

コメントの追加 [注8]: 特記事項、接種について
･接種した場合はここに記載。病原菌の由来や接種方法(接種量や箇所、薬剤処理との時間的関係)を記載

コメントの追加 [注9]: 試験成績について
･結果を表形式で記載。
･連制ごとまたは調査地点ごとに結果を表示し、合計値または平均値を表示する。
･評価に用いた数値(発病指数、発病率および防除価等)も記載する。
･薬害は調査時期がわかるように表記。
･2021 年度より表中の無処理区の薬害記号は記載不要となりました。

紙面のスペースによっては“後述”と記載し、表を末尾に記載しても可。

作物名

（ 2021 ）年 度 委 託　　（ 稲 ）

対 象 病 害 虫 名 ・ 学 名　いもち病(葉･穂) *Pyricularia oryza*　　**試験場名**　一般社団法人　日本植物防疫協会

薬効調査(穂いもち:9月6日)

供試薬剤	処理量 処理方法	連制	調査穂数	発病穂率(%)	程度別発病穂率(%) 穂首	枝梗1/3以上	枝梗1/3未満	被害度	防除価
1） A粒剤	50g/箱	Ⅰ	400	2.3	0.09	0.45	1.79	0.85	
新規化合物 2%	播種時覆土前	Ⅱ	400	1.2	0	0.27	0.89	0.41	
Lot No. AAAAA		Ⅲ	400	1.3	0	0.18	1.07	0.40	
		平均		1.6				0.55	93.6
1） A粒剤	50g/箱	Ⅰ	400	0.7	0	0.09	0.63	0.22	
新規化合物 2%	移植当日	Ⅱ	400	3.2	0.18	0.71	2.32	1.25	
Lot No. AAAAA		Ⅲ	400	1.3	0	0.09	1.07	0.34	
		平均		1.7				0.60	93.0
対） B箱粒剤	50g/箱	Ⅰ	400	1.3	0	0.09	1.16	0.36	
既知化合物 3%	移植当日	Ⅱ	400	4.7	0.98	1.43	2.32	2.53	
既知化合物 12.5%		Ⅲ	400	1.5	0.09	0.27	1.25	0.59	
		平均		2.5				1.16	86.5
無処理		Ⅰ	400	17.5	1.75	4.50	17.50	9.27	
		Ⅱ	400	11.0	1.25	5.50	11.00	7.74	
		Ⅲ	400	11.0	2.50	5.25	11.00	8.83	
		平均						8.61	

薬害調査

供試薬剤	処理量 処理方法	連制	調査月日 4/19～5/10（育苗期間）	5/24（移植14日後）	6/10（同31日後）	7/17（同68日後）	8/1（同83日後）	8/30（同112日後）	9/7（同120日後）
1） A粒剤	50g/箱 播種時覆土前	Ⅰ	—	—	—	—	—	—	—
		Ⅱ	—	—	—	—	—	—	—
		Ⅲ	—	—	—	—	—	—	—
1） A粒剤	50g/箱 移植当日	Ⅰ	—	—	—	—	—	—	—
		Ⅱ	—	—	—	—	—	—	—
		Ⅲ	—	—	—	—	—	—	—
対） B箱粒剤	50g/箱 移植当日	Ⅰ	—	—	—	—	—	—	—
		Ⅱ	—	—	—	—	—	—	—
		Ⅲ	—	—	—	—	—	—	—

4. 考 察（判定した時期、判定記号を記載）

対照薬剤のB箱粒剤は葉いもち、穂いもちともに防除効果が認められた。

葉いもちの判定は7月17日の調査結果をもとに行った。穂いもちの判定は9月6日の調査結果をもとに行った。

1） A粒剤　50g/箱 播種時覆土前処理　葉いもち AAA－　穂いもち AAA－

本処理の葉いもちおよび穂いもちに対する効果は、対照処理と比較してまさる効果を示し、無処理と比較して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

1） A粒剤　50g/箱 移植当日処理　葉いもち AAA－　穂いもち AAA－

本処理の葉いもちおよび穂いもちに対する効果は、対照処理と比較してまさる効果を示し、無処理と比較して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。

薬害は認められなかった。

コメントの追加 [注10]: **考察について**
・実用性の判定は基本的に対無処理判定を重視する。対無処理判定と異なる判定とする際は、その理由を明記する。